

令和4年度 シラバス

愛媛県立大洲高等学校

教科	理科	科目	生物基礎	学年	2	類型	商業科
単位数	2	教科書	新編 生物基礎	出版社	啓林館		
副教材	生物基礎の基本マスター（啓林館）他						

学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養います。
授業の概要	生物の多様性と共通性について理解する。生物や生命現象についての観察・実験・ディスカッションなどを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探究する能力と態度を養います。

学期	単元	教材	学習内容	評価の観点				
				①	②	③	④	
1 学期	第1部 生物の特徴	細胞	第1章 生物の共通性と多様性 A 多様な生物のもつ共通性 B 生物共通の単位：細胞 C 細胞の構造の共通性と多様性 D 生物の構造の共通性と多様性	○	○	◎	◎	
	第2部 遺伝子とその働き	光合成 呼吸 DNA	第2章 細胞とエネルギー A 生命活動とエネルギー B 光合成と呼吸 C 葉緑体とミトコンドリアの起源 第1章 遺伝情報とDNA A 遺伝子とは B DNAの構造 C 遺伝子とゲノム	○	○	○	◎	
2 学期		体細胞分裂 タンパク質合成	第2章 遺伝情報の分配 A 遺伝情報の複製 B 遺伝情報の分配 第3章 遺伝情報とタンパク質の合成 A 遺伝情報とRNA B 遺伝情報の発現とタンパク質の合成 C タンパク質のさまざまな働き D 遺伝情報の維持と発現	○	○	◎	◎	
	第3部 生物の体内環境の維持	体液 腎臓 肝臓 神経 ホルモン	第1章 体内環境と恒常性 A 恒常性とは B 体液とその働き C 体液の循環 D 体液の恒常性 第2章 体内環境の維持のしくみ A ホルモンによる調節 B 自律神経による調節 C 血糖濃度の調節	○	○	○	◎	
3 学期		免疫	第3章 免疫 A 生体防御 B 体液性免疫 C 細胞性免疫	◎	◎	○	○	
	第4部 生物の多様性と生態系	植生 遷移 バイオーム 生態系	第1章 植生の多様性と分布 A さまざまな植生 B 遷移とそのしくみ C 気候とバイオーム 第2章 生態系とその保全 A 生態系とは B 物質循環とエネルギーの流れ C 生態系のバランスと保全	○	○	○	◎	

※「評価の観点」欄の数字は、下記の評価の観点に対応しており、重点的に評価する項目に◎、評価する項目に○を付けている。

評価の観点及び評価規準			
①関心・意欲・態度	②思考・判断	③技能・表現	④知識・理解
・生物や生物現象に関心や探究心を持ち、意欲的に取り組んでいる。	・生物や生物現象の中に問題を見出して観察、実験を行っている。 ・分析的、総合的に問題をとらえて科学的に判断している。	・実験・観察の技能を修得している。 ・実験・観察の結果から導き出した考えを的確に表現できる。	・生物の多様性と共通性について理解する。 ・生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価の方法			
定期考査に加え、実験、ディスカッション等への取り組み、提出物（レポート、課題、ノート等）、小テスト（単元テスト、課題テスト等）の成績などを総合的に評価します。また、平常の授業態度や発表の姿勢・内容、積極性等も評価の対象になります。			